令和７年度　江戸川区立平井小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	やりぬく平井の子 やりぬく心　やりぬく体	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・わかった、できた、学ぶ楽しみがある学校　友達いっぱい、今日も行きたい学校　地域を大切にし地域に愛される学校 ・よく聞き深く考え表現できる子ども　違いを認め合い思いやりあふれる子ども　勇気をもって一歩を踏み出せる子ども ・子どもの可能性と意欲を引き出す教師　人間味あふれる教師　プロ意識をもち、自ら学び自ら高める教師
前年度までの本校の現状	成果：子どもたちが自ら課題を見い出し、解決の課程で仲間と共に試行錯誤しながら自己の学習を調整する態度の育成を図っている。全教科・領域で粘り強く取り組む学びの実現を目指している。	課題	自他のよさを認め、協働して学びに向かう学習集団を目指してきたことによって、学び合う姿勢が身に付いてきた。次の学びにつなげていこうと自己調整を行えるように振り返りの場を大切に指導していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○基礎・基本の定着	・学力向上アクションプランの活用 ・家庭学習習慣の確立 ・放課後学習の実施 ・よむYOMUワークシート	●ベーシックドリル⇒正答率５０%以下を２割 ●学力テスト⇒都・区平均以上	B	B	B	・テスト対策のための時間確保が必要。家庭学習の定着を図る。⇒朝読書の時間を活用して復習に取り組む。また、家庭学習を促す。 ・よむYOMU研修を行った。	B	・朝読書の時間を工夫しながらの復習、大変良いと思います。家庭学習の定着も児童の学力向上につながると思います。	B	・数値目標を達成するには、やはり復習のための時間確保が課題。 ・都の学力テストは国語は平均以上、算数は平均であった。区は２月に結果をHPにアップする。	B	・学力向上に向けた取り組みと、情報発信ありがとうございます。今後も継続した指導をお願いします。	・復習時間を計画的に確保して、学力を定着させる。
	○学習場面の設定	・課題解決学習の推進 ・ALTとの連携 ・一人一台端末による指導 ・ミライシードの活用	●研究授業年７回 ●意識調査 ⇒肯定的回答８０%	B	B	B	・研究授業で、授業改善に取り組んだ。自分のめあてに対する達成度を考えさせた。⇒端末を活用した共有の工夫が必要。	B	・研究授業を通じて、子供自身が達成度を考える機会を持てたことは素晴らしい。端末を活用した学びも、これからの時代に合った工夫です。	B	・アンケート肯定的回答は、９０%達成。自分の意見に自信をもち、理由までしっかりと伝え合えるように指導をしていく。	B	・自分の考えを伝えようとする姿が育っていることが嬉しいです。さらなる定着を期待します。	・ペアや話型指導を通して、伝える力の継続的な向上を目指す。
	○読書科の更なる充実	・探究的な学習の充実 ・読み語り ・読書科ノートの活用 ・読書科研修	●読書科の授業公開 ●読書科の意識調査 ⇒肯定的回答８０%	B	B	B	・朝読書や季節に応じた企画読書を設定したことで、本を読むことが好きと答える児童が増えた。⇒絵本や図鑑を好む児童が多い。文章量の多い本を借りるよう促す。 ・図書館の蔵書を確認、整理。	B	・季節に応じて、読書活動を工夫していただきありがとうございます。本を読むことが増えているのは、とても喜ばしいです。	B	・「本が好き」と肯定的回答は、８１%達成。「本やネットを活用した課題解決をしている」は７６%程度なので、授業での活用場面を意識して設定していく。	B	・読書や調べる学習を取り入れた取り組みが見られました。授業での工夫が今後も広がることを臨みます。	・授業内での活用場面を増やし、学習ツールの効果的活用を進める。
体力向上	○体力向上	・体力テスト ・外遊び ・なわとびチャレンジ週間 ・ゆうゆうタイム	●体力テスト⇒都の平均以上 ●意識調査結果⇒肯定的回答９０% ●なわとびウィーク⇒年３回実施 ●ゆうゆうタイム⇒年２０回実施	B	B	B	・意識調査は、肯定的回答９０%を達成。全学年の意識を高めるため、外遊びやゆうゆうタイムを充実させていく。 ・体力テストでは昨年より数値は上がったが、東京都平均を下回った種目もあった。シャトルランの数値は大幅に上がった。握力は、下回った学年があった。	B	・肯定的な回答が多かったのはとても良い。外遊びやゆうゆうタイムの充実は、児童の心身の健康にもつながるので、地域としても見守っていきたい。	B	・肯定的な回答が若干下がってしまった。なわとびウィークの行い方を再検討し、来年度に生かしていく。 ・ゆうゆうタイムの充実を学校として取り組んでいく。（年度初めの研修をいかして）	B	・課題を受け止めて、改善に向けて考えられている点を評価します。次年度の取り組みに注目しています。	・なわとびウィークの行い方を再検討し、主体的に取り組める活動へ再構築する。 ・ゆうゆうタイムで、年１５回実施へ見直しを行い、子供が進んで取り組めるようにする。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○思いやりの心	・道徳教育 ・花いっぱい運動 ・異学年班活動 ・校内外のボランティア活動 ・平井ルミナルとの交流活動	●100周年に向けて、花壇整備 ●「平井ルミナル」との交流活動 ●ボッチャ体験	B	A	B	・道徳教育は、児童の実態に合わせて取り組んだ。道徳授業についての研修を通し、実践力を養う。講師の講演を行う。平井ルミナルとの交流も開始する。	B	・児童の実態に合わせた取り組みや、講師の方による講演はとても意義深いと思います。平井ルミナルとの交流も、児童にとって新しい学びになる。	A	・平井ルミナルとの交流は、今年度、新たに６年生が３月に授業を実施予定である。中休みも一緒に遊ぶなど自然な交流が増えた。	A	・交流を通して、自然な関わりが生まれた様子がうかがえます。今後も続いていくことを願っています。	・年間計画に位置付け、継続的に交流活動を推進する。
	○特別支援教育の充実	・学習環境のユニバーサルデザイン ・個に応じた指導 ・エンカレッジルームの活用 ・SSW、SCとの連携	●特別支援に関する意識調査 ⇒肯定的回答９０%	B	B	B	・エンカレッジルームについて、低学年の理解を図るために、エンカレッジ動画を作成する。支援が必要な児童の支援の内容を情報共有する。	B	・支援が必要な子どもに合わせた対応を丁寧にしていただき、ありがとうございます。心の病気も増えているので見守ってほしい。	B	・低学年児童には、実態に応じて紹介をした。今後も各関連機関と連携を図ったり、学校全体で情報共有をしながら個に応じた指導を行っていく。	B	・関係機関と連携しながら、一人一人に寄り添った対応、ありがとうございます。	・校内外での情報共有をさらに強化して、継続的で素早い支援体制を充実させる。
	○自己肯定感の醸成	・人権教育の推進 ・キャリア教育の充実 ・体験活動の工夫	●生活に関する意識調査⇒肯定的回答８０% ・笑顔と学びのプロジェクト	B	B	B	・キャリアパスポートでは１学期、学期のめあてに取り組んだ。２学期は、運動会や学習発表会などの行事を通して、達成感や、やりぬく力の向上を目指す。	B	・行事を通して、児童が達成感を味わい、やり抜くカをはぐくんでいけるのはとても良いことだと思います。	B	・各行事や各学年の体験活動を通して、児童も大きく成長した。意識調査の肯定的回答が維持できるように指導していく。	B	・体験活動を通して、子供たちの成長が感じられます。前向きな雰囲気が今後も保たれると嬉しいです。	・体験活動を計画的に位置づけ、振り返りを通して成長を実感させる。
不登校・いじめ対応の充実	○生活習慣の確立	・フッ化物洗口 ・平井っ子家庭ルール週間の徹底 ・SNSルールの定着 ・挨拶、返事、名札の徹底	●生活に関する意識調査 ⇒肯定的回答80% ●生活指導だより ・平井っ子家庭ルール	C	C	C	・安全に登校する意識を高めるために、登校時間を再度確認し、指導する。平井っ子家庭ルールカードの回収率90%以上を目指し、SNSルールの定着につなげる。	C	・登校時刻の確認やご指導ありがとうございます。家庭ルールカードの取り組みも、保護者と連携して進めてほしいと思います。	C	・SNSの使い方をめぐり、高学年でトラブルが起こりがちである。毎月１回の安全指導時に、SNSルールを確実に実施し、定着を図る。	C	・SNSについて継続的に指導していただいていることに安心感があります。安全意識がさらに深まることを願います。	・具体的事例を用いた指導を充実させ、今後も家庭と連携しながら定着を図る。
	○いじめのない学校	・道徳教育の充実 ・L-Gateを活用した観察 ・SNS指導 ・迅速で適切な組織的対応	●いじめアンケート ⇒年３回実施 ●L-Gate ⇒毎日実施	B	B	B	・いじめ対策委員会を開き、児童アンケートに書かれた案件を検討した。児童理解のため、L-Gateを積極的に活用する。	B	・児童アンケートを もとに検討いただき、ありがとうございます。L-Gateの活用も新しい取り組みとして心強いです。	B	・いじめアンケートに書かれた案件が１回目より２回目の方が減少した。３学期にL-Gateの研修を実施し、効果的に活用していく。	B	・研修内容を生かした取り組みにより、よい変化が見られた点が心強く感じられます。	・L-Gateを活用し、児童理解を深められるよう研修を行っていく。
	○体罰ゼロの学校	・人権教育 ・人間関係づくり ・服務事故防止研修	●体罰アンケート年１回	B	B	B	・服務事故防止研修では、事例をもとに、事故の未然防止への対策を強化させた。	B	・事例を通した取り組み、大変意義深いと思います。職員の安全意識が児童の安心につながります。	B	・12月に２回目の服務事故防止研修を行った。日頃から人権意識を高くもちながら職務に専念する。	B	・人権の取り組み、ありがとうございます。安心して過ごせる学校づくりをよろしくお願いします。	・人権教育を継続的に実施し、安心できる学校風土の定着を目指す。
	○不登校を出さない学校	・児童の変容把握シート	●不登校・不登校傾向の児童 ⇒全体の１%	B	B	B	・不登校防止シートを作成し、個々の児童の状況を把握した。変化を見逃さないように、個に応じた支援を行う。	B	・児童一人一人を丁寧に見ていただきありがとうございます。小さな変化に、早期対応をしていただけることは、保護者の安心になります。	B	・不登校や不登校気味の児童に対し、組織的に対応する。引き続き個に応じた支援・早期対応を行う。	B	・不登校児童への組織的な支援体制が整えられていることに安心感があります。	・早期発見と個別支援の充実を図り、登校しやすい環境づくりを進める。
	○温かな言葉が広がる学校	・あいさつ週間 ・正しい言葉遣い ・エンカウンターを取り入れた学級づくり	●生活に関する意識調査 ⇒肯定的回答80%	B	B	B	・代表委員会が中心となり「よい子週間」を実施した。毎日の指導を通して、学校のきまりを守ろうという意識を育てていく。	B	・児童自身が主体となる活動はとても良い。地域としても応援したい。	B	・旗振り当番の保護者やPTA・地域と連携しながら、児童が安心してあいさつを交わせる環境づくりに努める。	B	・PTAや地域と連携し、安心して挨拶できる環境づくりが進められていると感じます。	・PTAや地域と連携し、児童が安心して過ごせる環境づくりに努める。
地域社会に開かれた学校の実現	○小中が連携した子供の成長の捉え	・９年間を見通した指導 ・授業参観２回 ・部活動体験１回 ・進学先との情報交換	●小中連携 ⇒年３回実施	B	C	B	・１学期に第１回目の連携を行い、各校の取り組みについて話し合った。３学期は各教科について話し合う。	B	・学校間での共有は大切だと思う。教科ごとの話し合いで児童の学びがさらに深まることを期待しています。	C	・年間３回は行っているが、連携の内容をより効果的なものとしていく工夫が必要である。	C	・継続的な連携が行われており、より充実した内容への工夫をよろしくお願いします。	・連携の目的を明確化し、事前共有と振り返りを通して内容の質を高める。
	○保護者・地域との連携協力	・PTA活動、地域行事への参加 ・HPの充実 ・地域人材の積極的活用 ・体験活動の充実	●保護者アンケート⇒回収率７０%以上 ●PTA平井小まつり⇒参加率６０%以上 ●HP⇒毎月１回更新	B	B	B	・HPの情報発信を積極的に実施するため、システムを見直し、毎月更新できるようにした。	B	・毎月更新していただけるのは大変ありがたい。保護者や地域にとっても安心感につながる。	B	・可能な限りで、地域行事に参加した。PTA平井小まつりには６０%が参加した。 ・保護者アンケートは７０%の回収ができた。	B	・地域行事への参加やアンケートの高い回収率から、学校と家庭のつながりが感じられます。	・地域行事への参加率向上の工夫とHPでの情報発信を充実させ、家庭とのつながりをさらに深める。
	○保護者への誠実な対応	・保護者会、個人面談 ・スピーディーな対応 ・傾聴の姿勢と適切なアドバイス ・相手サイドに立った見方	●保護者会 ⇒年２回 ●個人面談 ⇒年２回	B	B	B	・保護者が学校への興味を高められるようにする。 ・学年間・管理職への連絡・報告を迅速にして情報共有を図り、対応に努めた。	B	・保護者が学校に関心をもてるように工夫していただき、感謝しています。児童を安心して学校に送り出せるよう、引き続きご尽力をお願いします。	B	・保護者会・個人面談を適切に行った。 ・面談以外にも電話で相談したり、個別で話したりして連携を図った。	B	・面談や電話相談など丁寧な対応から、家庭との連携の深まりが感じられます。	・面談や電話対応の方法を工夫し、家庭との更なる連携体制に努める。
特色ある教育の展開	○服務の厳正	・教育公務員としての自覚 ・服務事故０ ・職務に厳しく人に優しく ・日常的な情報共有	●服務事故防止研修の実施 ●服務事故０の継続	B	B	B	・毎学期服務事故防止研修を行い、服務事故０に向けて、日常の取り組みの意識を高めていく。	B	・研修を通して安全への意識を高めていただいていることに感謝します。	B	・毎学期の服務事故防止研修で、教員の服務事故０に向けての意識を高めることができた。	B	・継続的な研修により、教職員の意識向上が図られていることに安心感があります。	・具体的事例を活用した研修を継続し、実践的な危機意識の定着を図る。
	○心身の健康と豊かな人間性	・定時退勤日の設定 ・働き方改革 ・SC、SSWとの連携 ・SSS、SSの積極的活用	●時間外勤務45時間超の教職員１５%未満 ●人材の効果的な活用を図り、事務作業毎日１人１０分の軽減	B	B	B	・人材の活用によって働きやすい環境ができてきている。 ・業務の精選や、人材活用を図り、作業の効率化につなげる。	B	・先生方が働きやすい環境が、児童の教育にも良い影響を与えると思います。	B	・SSSに業務の多くを助けてもらい、勤務時間の削減につながった。 ・定時退勤日は、来年度さらに定着させていく。	B	・業務改善の取り組みにより、働きやすい環境づくりが進められていると感じます。	・業務の見直しを進め、効率化と働きやすい環境の定着を目指す。
	○職層を活かしたOJT	・日常的な支援と指導	●各教員の専門性を生かした研修⇒年間10回実施	A	A	A	・１学期は４回研修を行った。各教員の専門性を生かした研修が充実している。	A	・先生方が学び合い、専門性を生かして研修をされていることは心強いです。	A	・OJTを年間１０回行い、様々な専門性を学ぶことができた。	A	・計画的なOJTを通して、教職員の専門性向上に努めている様子が伝わります。	・OJTの内容を再検討し、学校全体の専門性向上へつなげる。